

翌七日、鄂勒克吐拉爾に着、行程約九里。道路概ね平坦、其の空克斯、昌曼の兩河孟は、頗る水草に富む。途中始て雷を聞く。

八日昌曼山の北麓を上下し、阿里曼阿拉里即ち哈魯努爾達坂の北坂端に到る。惠遠城出發以來、日として伊犁河に沿ふて東行せざることに無かりしが、今や此に至りて該河を辭し、右折南行昌曼山脈を超越す。坂は上登一里餘、急峻にして纔に騎行すべく、南坂は稍々緩なり。南坂下り盡せば、昌曼河の上流に出で、東は其の水源地那刺特山を天末彷彿の際に望み、南は達哈特達坂を近く咫尺の裡に仰視す。

哈薩克と
訣別
得祿榮歸

明日よりは、吐爾扈特族の游牧地と爲るに因り雅瑪吐以東親み來れる可憐の哈薩克と訣別せざるべからざれば、記念の爲め一同と共に撮影す。偶々哈薩克鹿を贈る。予爲めに銀一塊(約五兩)を與へて其厚意を謝せり。同行の馬守備曰く『得祿榮歸』大人の前途を祝するに似たりと。蓋し鹿祿音相通するに因る。

七、天山第二回の超越

九日、數十人の哈薩克に見送られつゝ、發程し、暫時にして達哈特達坂の南端に到る。南坂は約三里餘、其の最後十數町の間は、坂路急峻なるも、他は皆騎行し得べし、